

都市再生整備計画 事後評価シート
沓掛地区

令和7年3月

茨城県坂東市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	茨城県		市町村名	坂東市		地区名	沓掛地区			面積	140ha						
交付期間	平成30年度～令和4年度		事後評価実施時期	令和6年度		交付対象事業費	93百万円	国費率	0.435								
1)事業の実施状況	事業名																
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(道路改良交差点溜り整備市道沓掛129号線)、公園(しど谷津公園)、高質空間形成施設(街路灯整備沓掛地区市道沓掛129号線)														
		提案事業	なし														
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路(道路新設1沓掛地区、道路新設2沓掛地区、道路新設3沓掛地区、道路新設4沓掛地区、道路新設5沓掛地区、道路改良市道沓掛191号線、道路改良市道沓掛193号線、道路改良市道沓掛194号線)、公園(新設公園)			事業予定地で考古学上重要な遺跡が発見され、事業を行うことが困難となったため削除			指標1地区内人口、指標2地区内住宅数の数値目標を修正								
		提案事業	-														
	新たに追加した事業	基幹事業	公園(新規公園整備事業)			事業項目の見直しにより削除			まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響はなし								
提案事業		-															
交付期間の変更	当初	平成30年～平成34年		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		交付期間の変更による目標、指標、数値目標への影響なし											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期				
	指標1	地区内人口	人	3,246	基準年度	H29年	3,246	目標年度	R4年	モニタリング	評価値	3,108	△	あり	-	地区内人口は、評価値が3,108人と、目標値の3,246人を達成することはできなかった。事業予定地での考古学上重要な遺跡の発見による当初計画した事業の削除の影響が大きいことが要因と推測される。	-
														なし	●		
	指標2	地区内住宅数	棟	815	基準年度	H29年	815	目標年度	R4年	モニタリング	評価値	814	○	あり	-	地区内住宅数は、評価値が814棟と、人口減少下において大幅な減少はなく、目標値の815棟を概ね達成することができた。	-
														なし	-		
	指標3	商店街営業店舗数	件	21	基準年度	H29年	21	目標年度	R4年	モニタリング	評価値	15	×	あり	-	商店街営業店舗数は、評価値が15件と、目標値の21件を達成することはできなかった。経営者の高齢化や後継者不足のほか、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための営業店舗の営業時間の制限や外出自粛などが要因と推測される。	-
														なし	●		
	3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期			
		その他の数値指標1															
	4)定性的な効果発現状況																
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況							今後の対応方針等						
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							-						
	官民連携による取組	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							-						
	持続的なまちづくり体制の構築	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							-						

様式2-2 地区の概要

沓掛地区(茨城県坂東市) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値		
自然と調和する地域づくり ○生活基盤の整備による地区住民が暮らしやすい環境づくり ○既存商店街の整備による地区の魅力や活力、賑わいの向上	地区内人口	単位:人	3,246	H29年	3,246	R4年	3,108	R6年	
	地区内住宅数	単位:棟	815	H29年	815	R4年	814	R6年	
	商店街営業店舗数	単位:件	21	H29年	21	R4年	15	R6年	

しど谷津公園 (園路)

しど谷津公園 (四阿)

市道129号線 交差点溜整備

市道129号線 街路灯整備

まちの課題の変化

○**地区内人口の減少**
 地区公園の整備が行われ、地区住民が暮らしやすい環境づくりが図られたことにより、地区内住宅数は、評価値が814棟と、目標値の815棟を概ね達成することができた。
 地区内人口は、評価値が3,108人と、目標値の3,246人を達成することはできなかった。
 ⇒依然として人口減少が続いているため、居住誘導区域として暮らしやすい環境づくりの推進及び可住地の拡大の検討が必要である。

○**活力、賑わいの停滞**
 既存商店街中心部の交差点溜り整備、商店街内市道129号線の街路灯整備を行い、歩行者の安全性が向上し、地区住民が訪れやすい環境づくりを図った。
 商店街営業店舗数は、評価値が15件と、目標値の21件を達成することはできなかった。
 ⇒既存商店街を中心とした更なる活力・賑わいの創出が必要である。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

当初計画では当地区で土地区画整理事業が計画されていたが、事業予定地での考古学上重要な遺跡の発見により土地区画整理事業を行うことが困難となったことから土地区画整理事業に関連する事業を削除した。今後は都市的土地利用が可能なエリアでの整備等を検討・推進する。

【沓掛地区の一体的整備を契機としたまちづくり】 ⇒住民参加のまちづくりの検討
 ・行政による計画的なまちづくりを行うのみならず、事業者・住民等の更なる連携・協力の下、住民が参加するまちづくり活動を推進する

【居住誘導区域として暮らしやすい環境づくりの推進及び可住地の拡大の検討】 ⇒しど谷津公園の整備検討、しど谷津公園の利用促進の検討、地区内道路(歩道)の整備検討、空き家の活用の検討、新たな住宅地の整備検討、移住促進に関する既存支援の継続
 ・都市施設の整備や利用促進による暮らしやすい住環境の整備を推進する
 ・可住地の拡大による移住者の増加を図る
 ・移住促進に関するソフト支援を推進する

【既存商店街を中心とした更なる活力・賑わいの創出】 ⇒高質空間の整備検討、創業支援に関する既存支援の継続
 ・商店街における歩行者中心の空間の整備を推進する
 ・創業支援に関するソフト支援を推進する